

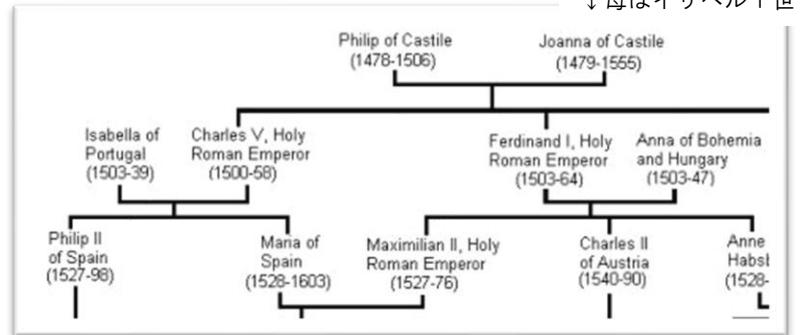
## 第11講 ヨーロッパ諸国の絶対王政の展開

① 16～17世紀の王家の組み合わせとして、正しいモノを1つ選びなさい。

- ①スペイン（ヴァロワ家） ②フランス（ロマノフ家） ③ロシア（ブルボン家） ④イギリス（テューダー家）

② この家系図から読み取ることのできる正しい文を1つ選びなさい。

- ①ブルボン朝の家系図である  
 ②スペインとオーストリアは同姓である  
 ③カルロス1世の父はフェリペ2世。  
 ④フェリペ2世の祖母はポルトガル王女。



③ 右の絵画は、和久くんが美術館で撮影した写真です。この絵画についての和久くんと一緒にいった友達との会話です。

- ①今回のバロック絵画展は有名なモノが来ていてよかったね。  
 ②この時代のオランダは国際貿易で繁栄していたから、文化財はさすが見事だね。  
 ③レンブラントやルーベンスも同時期の画家だから、見る方はお得な感じ（笑）  
 ④17世紀は継承戦争が多かったのだから、保存するのは大変だったろうね。

確かに。でも、今こうやって残っていること、金持ちに感謝しないとね（笑）

設問) ①～④の会話で歴史的な事実が間違っているモノを1つ選びなさい。



④ 右の文章は、新聞に掲載されたある大学教授のコラムの一部である。この文章にある「現代社会における宗教的な寛容さの重要性」として正しいものを1つ選びなさい。

- ①カトリックにも信仰の自由を与えるように宗教の共存は大切である。  
 ②この王令が廃止されるとフランス経済は衰退してしまったこと。  
 ③現在のイスラーム教徒への寛容性が今のフランスには必要である。  
 ④アンリ4世のような自ら他宗派に改宗する指導者が必要である。

16世紀のフランスはカトリックとプロテスタントが骨肉を争う宗教戦争に明け暮れていたが、その争いに終止符を打ったのがアンリ四世である。アンリ四世はこの王令によりプロテスタントの権利を認め、フランスに宗教的寛容を実現した。しかし、この王令は歴史的記憶に輝いているだけではない。これは現代社会においても宗教的寛容の重要性を呼びさすものである。

⑤ 三十年戦争に関する文として正しいモノを1つ選びなさい。

- ①ネーデルラントにおける新教徒の反乱をきっかけにして始まった。  
 ②フランスは旧教国であったが、三十年戦争に際し、反ハプスブルクの立場をとった。  
 ③スウェーデンのカール12世がプロテスタント側について、ウォレンシュタインと戦った。  
 ④ウェストファリア条約の結果、ドイツが国家統一に向けて第一歩を踏み出した。

⑥ 次の3つの名言に関する問題です。

- A：“君主は国家第一の僕”                      B：“朕は国家なり”  
 C：“太陽の沈まぬ国”                         D：“私は国家と結婚している”

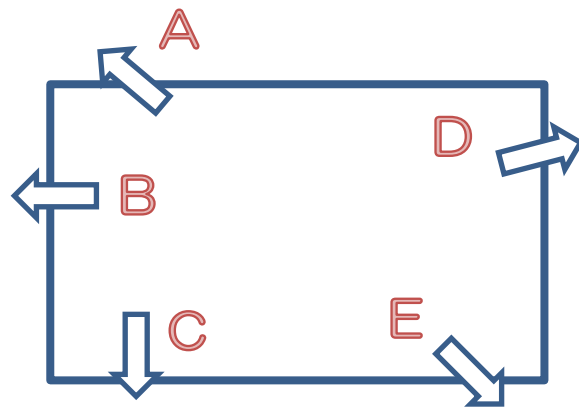
- (1) 右の建造物と関係の深い名言を1つ選びなさい。  
 (2) A・B・Dを年代順に並べた時に正しいものを1つ選びなさい。  
 ①ABD ②BAD ③BDA ④DBA ⑤DAB



- ⑦ マリア＝テレジアの業績として、正しいモノを1つ選びなさい。  
 ①スペイン継承戦争後まもなく、宿敵フランスと結んだ。  
 ②プロイセンのピョートル1世とはライバルだった。  
 ③シュレジエン地方奪回のため、プロイセンと戦った。  
 ④子フランツ2世は、啓蒙専制君主で内政改革を行った。

- ⑧ 図を17～18世紀のロシア領と考えた時、次の出来事とその矢印の方向との組み合わせがふさわしいものを選べ。

- A：ピョートル1世がベーリングに探検させる  
 B：ピョートル1世によるポーランド分割  
 C：エカチェリーナ2世のクリム＝ハン国併合  
 D：エカチェリーナ2世による北方戦争  
 E：エカチェリーナ2世が中国へラクスマン派遣



- ⑨ 右の写真は、エカチェリーナ2世がロシア帝国の新都に建設したピョートル1世像である。  
 この像とその都市について正しいと思われるモノを1つ選びなさい。

- ①エカチェリーナ2世はデンマーク人だったので、  
 ピョートルを尊敬していることを表現した。  
 ②この像が建設されたモスクワはピョートル1世が作った街であった。  
 ③西方への窓とされたこの都市はバルト海への出入り口となっていた。  
 ④この像が建設される前にネルチンスク条約が結ばれていた。



- ⑩ 周辺諸国のなかでポーランド分割に参加しなかった国を選べ。

- ①ロシア ②オスマン帝国 ③オーストリア ④プロイセン